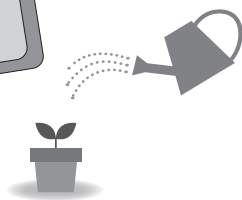


今月の
ブックトーク



3月(弥生)「ひなまつり」

前田 由紀

／渋谷教育学園渋谷中学高等学校司書教諭

3月3日ひなまつりは、女の子の健やかな成長と健康を願う日本の伝統行事です。そこで、今回は少女が主役でおなじみの海外小説を集めてみました。男性諸君、男の子には関係ないというなかれ。ハリー・ポッターで有名なエマ・ワトソンが2014年UN Womenの親善大使となった国連でのスピーチでHeForHerを唱えました。男性の理解が重要ということです。原作から自分の道は自分で切り開くたくましい少女たちの新たな一面を発見することでしょう。

代表作といえば、初めに、『赤毛のアン』でしょう。カナダの自然に恵まれた片田舎を舞台に1908年に出版されました。孤児院から引き取られたアンは、当初奇異な目で見られ失敗を重ねますが、持ち前の並外れた想像力と賢明さで周囲の信頼を徐々に獲得していきます。彼女の夢想家ぶりに驚きますが、質素な暮らしの中での美しい自然が目に浮かびます。お気に入りの場所に次々と自分で考えた名前を付けていくのも素敵です。人前で有名な詩を語んじて朗読する場面もいいですね。



L・M・モンゴメリ・作
村岡 花子・訳
講談社



ルイザ・メイ・オルコット・作
海都 洋子・訳
岩波書店(岩波少年文庫)

次は、『若草物語』。原題は、Little Women「小さなご婦人たち」。「幼くてもひとりの人間として、自分に責任をもって生きよう」という父親の願いが込められています。1868年出版でアメリカの10代4人姉妹が描かれます。南北戦争に従軍して父親が留守の家庭で重なる苦難がおそいますが、それぞれ個性の異なる姉妹が協力し、

貧しいながらも温かい団らんを囲みます。特に男の子みたいな次女ジョーが印象に残ります。彼女は、女性の幸福が結婚だという保守的な考え方や男性の前で着飾る態度に反抗します。4人姉妹がオリジナルの芝居をしたり、新聞を発行したり、自分たちで遊びを生み出していく楽しさにあふれているのも魅力です。

ここで、評論『挑発する少女小説』です。この本での「少女小説」とは、19世紀後半から20世紀前半に書かれた少女を主人公とした翻訳小説9作品を指し、ここで紹介する3作品も含まれています。21世紀の現在の視点からも根強い人気を誇る秘密に迫ります。その当時の時代背景に照らし合わせた著者の歯に衣着せぬ批判的な記述も新鮮です。主人公が自立するために奮闘する「シンデレラ物語の脱構築」は今も新しい。理不尽に対して率直に意見を言う戦う少女たち。この一冊は、原作をもう一度深く味わうきっかけとなるに違いありません。



斎藤 美奈子・著
河出書房新社
(河出新書)

最後は、1912年にアメリカで出版された『あしながおじさん』です。孤児のジュディが匿名の篤志家あしながおじさんの援助により大学生活を送るお話。ジュディから篤志家への一方的な書簡形式で話が進み、女子学生の当時のキャンパスライフが描かれます。書簡では援助者に媚びない率直な言動に好感が持てます。途中から大学の奨学金を獲得したり、家庭教師のアルバイトをしたりして自立を目指す姿勢もかっこいいのです。



ジョン・ウェブスター・作
谷川 俊太郎・訳
安野 光雅・絵
朝日出版社

最後のページのクイズの答え Q1 ① 100円硬貨 Q2 ② 魏志倭人伝 Q3 ③ 女の子に災いが降りかからないよう
う、人形に引き受けてもらうため Q4 ① 縁起の良い食材がたくさん使われているから

※「今月のブックトーク」「図書館クイズ」は、全国学校図書館協議会Webサイトに掲載しています。QRコードより、PDFもご利用ください。

